

ハワイリゾート 1 万円の旅（追記）

旅のチカラ研究所

2017 年 4 月公開 11 月追記

旅のチカラ研究所 植木圭二

福島県いわき市のスパリゾートハワイアンズに一泊で妻と行ってきた。ここはハワイと温泉をテーマにしたリゾート施設で、映画フラガールの舞台になったことでも有名だ。映画を見た時に是非行きたいと思っていたが、今回行くきっかけになったのが一泊 2 食付きで 8640 円、そして首都圏から無料送迎バス付きというプランを見つけたからだ。11 月に最終項に追記。

■安くても快適

バスは首都圏各地から出ているが私たちは横浜駅出発のバスに乗る。9 時に横浜駅を出て、約 4 時間後に現地に到着する。バスの中では施設の説明ビデオなどを見せてくれる。

到着し、ホテルにチェックインする。敷地内には宿泊用のホテルと遊ぶための施設スパリゾートハワイアンズがある。チェックイン時に館内着が渡され、これを着ているとスパリゾートハワイアンズに無料で入退場できるようになっている。もちろん移動は外に出ることなく建物は廊下でつながっている。



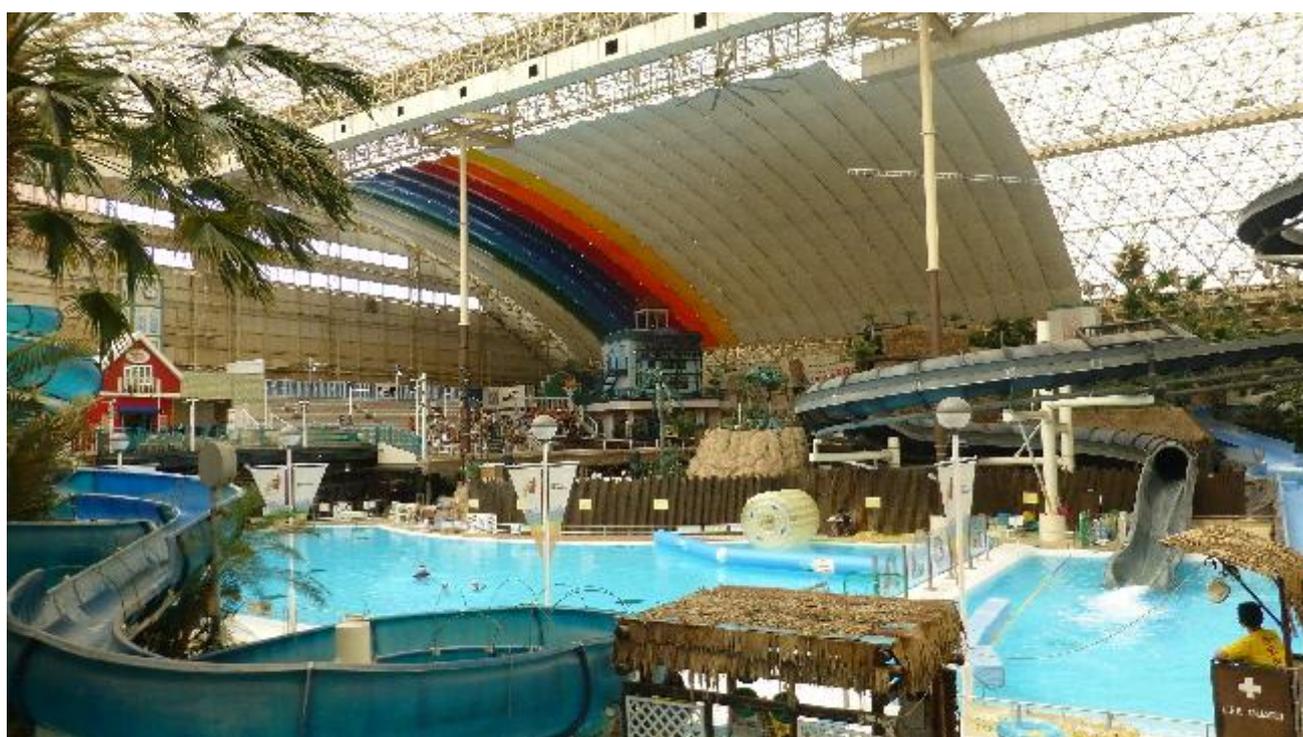
ホテルの部屋は和洋室、バス、トイレ、冷蔵庫などが標準装備され、安くても快適だ。

そして翌日の15時までたっぷり遊ぶことができる。当日はもちろん、翌日も運転を気にすることなく存分に風呂に入り、そして飲める。なんとありがたいことか。

私は一泊の温泉旅行で帰る日も温泉に何度も入る。そしてできれば風呂上がりの一杯も欲しいところだが、これがなかなか叶わない。ところが翌日運転がないということはこの願いが叶ってしまう。そう、叶ってしまうのだ。

■施設内はハワイだ

外はまだ4月で寒い、施設の中はハワイだ。快適な温度に保たれており水着でもうろつける。メインの建物には大きなプールとステージがあって、フラダンスショーは昼と夜にやっている。



フラダンスショーはかなりレベルが高い。全国各地からダンサー志望の若い女の子が集まることもあるが、自前の常磐音楽舞踊学院というフラダンスやタヒチアンダンス専門のダンサー養成学校でメンバーを育てている。就学期間が2年間というから半端ではない。



私もフラダンスを地球一周の船旅で少し習ったが、これが結構つらくて疲れる。常に膝を曲げて中腰での優雅なダンスを踊る。何事にも一見優雅に見えるものほど内実は大変なものだ。

それにしてもショーを見る家族連れやカップルの姿が多いのも実に良い。若者の活気が老人ホームの演芸大会にしないところが特に良い。



■ プール

プールも古代ローマ風、庭園風、おとぎの国風など、大小さまざまなバリエーションのプールがある。その数は30くらいあるだろうか。家族連れやカップルだけではなく、年配のサークルのような人たちまで楽しそうに水着で混浴？している。

ここはプールだけでも十分に楽しめる。



■ 温泉

温泉のテーマパークでもあるので、湯船の数や温泉の量は豊富だ。

その中には日本一の広さという名打った露天風呂がある。確かに広いが、私の体験では草津温泉の大露天風呂の方が大きいように思う。

この露天風呂は和の装いで屋根や柱が江戸時代風で、雰囲気は抜群に良い。

面白い催しとしては夜になると影絵のショーが開かれる。露天風呂の脇にある小屋で踊り子の女性が艶めかしいしぐさをして、影絵で映し出すというもので、温泉ツウを自負する私にも初体験だ。



私もこの影絵開演時刻に合わせて露天風呂に浸かって楽しみに待っていたが、なかなか始まらない。どうも音響機器の故障が原因のようで、スタッフが走り回っている。

待つこと 20 分、既に客の半分くらいは風呂を出てしまった。残りの半分はのぼせ上っている。そして影絵の艶めかしさで更にのぼせ上ることになった。

翌日の昼、入浴していると地元の人と思える人たちの会話が行き交う。その地元の人たちに聞けば毎日来ているという。20000 円の年間パスポートがあって、毎日来ると一日 60 円以下で大変お得だという。人によっては午前と夕方に来るという人もいる。

恐るべき入浴根性。いや、これこそ企業の地域貢献の姿だ。

正直言ってうらやましかった。この贅沢な風呂に毎日入れるとは、それも 60 円とは。

■ 食事

夕食はプールサイドにあるレストランなので水着でも入れるうたい文句になっている。ここでも若い女の子たちが水着でキャッキョはしゃぐ姿は新鮮で実によろしい。

夕朝ともに食事はバイキング形式なので、量は問題ない。質についても、ここで求めるものではないと私は思っている。ちなみにお金を更に出せば食事のグレードはいくらでも上げることができる。

■ 歴史が面白い

この施設の歴史や映画フラガールの撮影風景の展示コーナーは必見だろう。ついでに言うと来場前には映画フラガールを見ることをお勧めする。

この施設の歴史は実に面白い。それは単にテーマパークの開業ではなく、炭鉱という斜陽産業の事業転換という側面だ。

昔、炭鉱は構造的な不況だった。会社は整理解雇しつつも炭鉱労働者やその家族の雇用創出のために炭鉱以外の新規事業を立ち上げることにした。

それは当時の日本人が一番行ってみたい外国だったハワイに着目する。実はこの常磐炭鉱では産出さ

れる石炭よりも多くの水が出てくる。それも暖かい温泉なのだが、これが厄介物扱いされていた。この温泉水を利用するという逆転の発想で室内を暖めてハワイを作ることにした。

しかし新しい試みには賛否両論が出るものだが、なんとか反対を押し切り苦勞の末に前身の常磐ハワイアンセンターを1966年にオープンさせた。この状況は映画フラガールではうまく描かれている。

つまりは厄介物の温泉水を長所に変えて、日本人の旅行ニーズを的確に捉えたことが成功につながったということだ。うまくいく事業や計画にはこのようなストーリーが必ずある。

■震災

ここは福島県なので当然のように東日本大震災で被災している。その大変な復活劇については数年前に関係者の講演会で聞いた面白い話を思い出した。

ISO9001（品質マネジメントシステム）という業務の品質を維持向上する管理手法がある。最近ほどの企業でも採用しており、各企業・現場で決めた手順書に沿って業務を忠実にこなすことで業務の品質を確保して、評価改善する仕組みになっている。従って業務マニュアルが山ほどできるという、いかにも欧米型の手法だ。昔の日本のように職人技に頼るものではない。

震災そして原発事故によって従業員が地元から離れていってしまい、事業再開には大変苦勞したという。とにかく従業員が集まらない。新規採用をしても教育がままならない。教える人がいないからだ。

このような場合、選択肢としては積極策から消極策までいろいろあるが、スパリゾートハワイアンズでは最も積極的な手段をとった。新規に人を雇ってでも早く事業再開することである。そして、その教育に大変役立ったのがISO9001で整備した業務マニュアルだったという。その中には現場の業務手順やノウハウが細かく記載されている。

日本型の職人技ではこれは不可能なことだ。それにしてもマニュアルは面倒くさいが、使う状況を想像することが肝要だ。

フラダンスのダンサーも大変だったという。普段はしたことがない仕事をして復興を手伝いながらも、ダンサーは練習も兼ねて踊らないといけない。施設が破壊され、ダンサーが踊る場所がないので復興を訴えるために全国興行を行ったという。

■老若男女が楽しめる

今回は水着を持参しなかったので体験できなかったが、プールにはウォータースライダーが大小たくさんある。ウォータースライダーに特化しても十分に楽しめそうだ。

ゴルフもできるが、提携ゴルフ場ではなく専用のゴルフコースを持っているのが素晴らしい。

老若男女が楽しめる。そして炭鉱から事業転換、雇用創出、震災復興、地域貢献と極めて深い。

2017年4月20日～21日訪問

追記 2回目の訪問

2017年11月福岡在住の友人Tさん夫妻がやってきたので、福岡ではあまり馴染みのないスパリゾートハワイアンズに行くことにした。もちろん夫妻にとっては初めての訪問になるが、この旅行記を読んで行く気になったというから嬉しい。

■テルマエ・ロマエに登場？

行程や内容は一回目の訪問と概ね同じであるが、今回は漫画家ヤマザキ マリがフラガールのステージの空き時間にコンサートをするという。ヤマザキ マリは漫画「テルマエ・ロマエ」の作者で、そして漫画は映画化されて大ヒットした。ここではこの作品の内容は割愛するが、秘湯ファンのみならず多くの方に日本の温泉や風呂の素晴らしさを伝えたことは間違いない。

彼女は漫画家ではあるが美術家でもある。そして両親が音楽家だったということもあり、音楽とも関りがあって数人のメンバーでバンドを組んでいるようでなかなかのものである。少なくとも本業が漫画家なのでプロではないが、アマチュアにしては上手い。彼女はボーカルで楽器もできる。

30分のステージで最初の3曲はハワイアンだ。この中でフラガールとコラボをしている。そして残りはブラジル音楽と言っていたが、ブラジル音楽の中でもボサノバ色が強い。



トークの中で、彼女はこのスパリゾートハワイアンズが好きで是非テルマエ・ロマエに登場させたいと考えたが、編集者との打ち合わせの中でそれは叶わなかったという事を言っている。

私はとても違和感を覚えた。漫画家が自分の作品を作るのに編集者と相談し、その意見を尊重するとは思わなかったからだ。どうして作者の思いが通らないのだろう。

確かにこの漫画のストーリーは古代ローマ人が日本の温泉、風呂文化に影響を受けるのが本筋で、ここスパリゾートハワイアンズが登場するとなると古代ローマ人が影響を受けるのが日本文化だけではなく、ハワイ文化ということになりややこしい話になるからだろう。そう考えると編集者はその思い付きのような彼女のアイデアを強い思いで体を張って阻止したのかもしれない。

そんな光景が目に見えたとすると何となく納得する。そして現代では作品とは、編集者やスタッフも参画し知恵を出し一体になってチームで作っていくのだと思うようになる。

■子供がなんと多いのか

今回の訪問で特に目についたのは子供や若者が多いということだ。前回訪問でも同様なことを感じてはいたが今回は更に強く感じる。同伴したTさん夫妻も同じように感じているという。

レストランやバスの中で子供の割合を数えると全体の 2 割くらいは子供だ。その中には未就学の子供以外に小学生の姿も見られる。どう考えても平日なのに、学校はどうしたのだろうと心配してしまう。

私は今日が特別の日なのだろうと思い、いつもこんなに子供たちが多いのかと従業員の何人かに訪ねたところ、答えはみな同じで「いつもこんな感じですよ」と言う。

若いファミリー層に加えて、3 世代ファミリーも多い。そしてこんなシーンがあった。子供たちはプール遊びに興じる中で親に何かおねだりすると、若夫婦は「それはジイジに頼みなさい」などの声が聞こえる。まんざらでもない顔でジイジが対応している。それはとても微笑ましく感じる。

そんな光景を見ているとこの事業の目の付け所が素晴らしいということを感じる。子供は水遊び、ジイジとバアバは温泉、若夫婦は外国（ハワイ）という思考を見事に融合しているということだろう。

全国でこんな観光地あるいはテーマパークは私には思い浮かばない。

■混浴温泉プール

前回は水着を持参しなかったもので、プールには入らなかったが、今回は大丈夫だ。プールは全て温泉プールで温かく、15 くらいのプールやジャグジーがあるが、意図的に違う温度にしてある。体を動かして遊ぶところとゆっくりジャグジーに入るところでは随分違う。同じジャグジーでも好みにより選べるように温度設定が微妙に異なる。

プールエリアの真ん中には高温サウナ棟があり、真ん中にある熱源を 360 度とり囲むパノラマ形状になっておるのが面白い。時は 11 月も下旬でこのサウナはありがたい。

さて前回と異なるのはビッグアロハと呼ばれる超大型のウォータースライダーがオープンしたことだ。残念ながら今回体験しなかったが日本一の規模という。

この施設ができたせいかもしれないが、入場料金が値上げになっている。事業としては投資回収で致し方ないのか。

ジャグジーにいた若い女の子二人組に声を掛ける。彼女たちは東京からここに毎年来ているというので、福岡から来たと言うとビックリしている。そこから会話が始まる訳だが、こんな若い子たちに気軽に声を掛けられるというのもなかなかいい。

さすが、旅は老若男女の心を開放する。いや、単に中年おじさんたちのいやらしさだけか。

2017 年 11 月 19 日～20 日訪問